自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を掲示し、申し送りの際読み上げている。	長文にわたる法人の理念に基きホーム独自の理念をつくり上げており、毎日、朝・夕の申し送り時に全職員で唱和している。日々の業務の中で理念にそぐわない言動が職員に見られた時には、理解・納得できるまで当該職員と管理者とで話し合いの場をもつようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区費の支払い、ゴミ当番、回覧板を回してもらうなど、隣組として参加している。 また、町内マラソンの応援など行事を行っている。	区費の支払いの他、交通安全週間の巡視当番やゴミの監視当番、草取りなどで地域の方と接している。町社会福祉協議会主催の紙スキ体験に入居者が職員とともに参加し、牛乳パックを再利用したハガキ作りなども楽しんでいる。このところ途絶えているがホームの便りを地域で回覧していただいたこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自由にホームに訪問して頂けるようにし、利用者と実際に接して頂き、理解や支援方法を知っていただくよう働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、行政職員、家族代表、職員の参加等で意見や要望を伺い参考にし、交流を始めている。	家族代表、区長、区民生委員、町役場職員、ホーム職員の出席のもと、年2～3回実施している。ホームの利用状況や行事報告、介護関連情報の交換など委員からの意見・要望等が活発に出されている。	会議の内容によっては運営推進会議のメンバー以外の関係者にも出席を依頼し、ホームへの理解を深めるとともに出席者にとってもより意義のある会議となるよう工夫を加え、隔月の開催につなげていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の住民のホーム利用、あるいは入居に関して積極的に働きかけ、町、あるいは地域密着の他、市町村の必要など情報収集に努めている。	町の主催する地域ケア会議が毎月開かれており、近隣市町村のケアマネージャー等が参加し情報交換している。現在入居者の受け入れについては町内に限られているが、緊急度等によっては近隣市町村からの入居もあり得る。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて学んで、日々のケアに生かすよう努力している。やむを得ず拘束、制限の必要時は、家族に承諾を得て、利用者にも十分納得して頂いた上で実施している。	日中、玄関のドアは開錠している。中仕切りのドアにはセンサーが使用されているが全く自然で違和感は感じられない。身体拘束に関する研修も年1回実施されており、職員も正しく理解をしている。外出傾向のある入居者には自宅へお連れしたり、家族と電話で話をするなど気持ちが落ち着くように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内研修において学び、実践に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、資料回覧し研修している。個々の必要に合わせた話し合いや活用はされていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度、利用者の退去、新規入居者の受け入れの際、説明や話し合いにより、安心して利用できるようにした。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一人一人の利用者とのコミュニケーションをとり、率直に気持ちを表現して頂き、傾聴に努め、すぐに要求に応じる努力をしている。家人からの意見、要望にもすぐに対応できるように努めている。	意見や思いを直接言い表せる入居者は少ない。職員は入居者の意見や思いを表情や仕草から汲み取るようにしている。独居から入居される方も多く、当初はうまくコミュニケーションが取れない場合もあるが数ヶ月すれば良好な状態へと推移している。家族の来訪時には意見や要望を直接聞くようにしている。家族等へは法人が毎月発行する「ヒューマンヘリテージ通信」を郵送しており、ホームでの暮らしぶりや外出行事、翌月の予定などを知らせている。	新型インフルエンザ等、諸般の事情で開催を控えていたバーベキュー大会などを、入居者と家族、家族同士、家族と職員の意思疎通の場として再開し、意見や要望等をより多く出していただけるような取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、職員との良いコミュニケーションをはかり、自由に職員の意見が言えたり、提案を取り入れ、働きやすい環境作りに配慮している。昨年度は退職者が多かったが、今年度は、退職者はいない。	法人理事長も参加するホーム全体会議を1ヵ月半～2ヵ月に1回開催している。また、話し合いが必要な場合には随時実施している。会議も双方向で職員からの意見・要望も言い易い雰囲気がある。管理者も法人関連の他事業所の管理者からのアドバイス等を得て、職員の意見や提案に対応することもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職や職員の要望にできるだけ答えて下さる誠実さがあり、率直に話し合いさせて頂けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講者は、全体会議で報告をし、全職員で研修内容の共有化は図っている。また、代表者もスタッフ全体の各時期に必要と思われる研修を与えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム間のネットワークに参加している。互いの情報交換をし、ネットワーク内での研修、交流会にも参加している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がリラックスし、安心して自分らしく過ごして頂けるよう、本人の言葉に傾聴し、動作や表情から心情を察し、素早く対応できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と共に何度か訪問して頂き、お話を伺って、できるだけ要望に沿うよう努め、何でも自由に話せる良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅のケアマネと十分に連絡をとり、情報収集に努め、引き続きケアを継続し、まず必要な支援を十分に行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が感謝の言葉やねぎらいの気持ちを職員に伝えたり、家族の一員のような暖かい馴染みの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の生活の様子、体調の変化の際は、その都度お知らせしている。また、行事の写真など、面会の際などに見ていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話やレクリエーション、歌を歌う際、回想法施行時、馴染みの人や場所を思い起こして懐かしんでいただいている。また、ご利用者の友人などの面会もある。	3～4ヶ月に1回自宅の近所の知人、若い頃の職場の友人などの訪問を受ける入居者がおり、昔からのつながりを継続している。ホームのある町内には名所旧跡も多く、四季折々、入居前から馴染みになっている場所に職員とともに出かけ、懐旧の話題に花が咲くことがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内での作業やレクリエーション、その他の交流時もなるべく一つのテーブルで皆が顔を合わせて楽しめるよう工夫し、トラブルが起きないよう十分に配慮に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年、入院にて退居された方がおられるが、退居後も面会や家族の精神面のケアに努めた。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の口にする言葉に耳を傾け、その中から本人の意向を汲み取る努力をしている。	ストレートに自分の気持ちを表出できる方は少ないが、日中のレクリエーションやリハビリ体操の際の入居者との何気ない会話や仕草から思いを汲み取るようにしている。独居から入居された場合、帰宅願望の方が多く、職員が付き添い自宅の様子を見ることにより安心し生活に落ち着きを取り戻すことがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、入居者の「基礎情報」を家族から聞き取り作成し、より本人の希望を叶えられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心情の変化、通常と違う言動をした際は、連絡ノートに記載し、職員全員で把握し、分析し、ふさわしい対応ですぐに応じられるよう努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	前回外部評価以降、ケアプランを職員全員が、利用者ごと分担し、作成し、ケアマネージャーの承認を得ている。	基本的には6ヶ月に1回介護計画の見直しを行っており、見直しが必要な場合はその都度対応している。内容も具体的で分り易く記述されており、家族とも話し合っている。家族が遠方の方には電話等で説明している。入居者一人毎に職員の担当を決め、職員が計画を立て計画作成担当者に相談している。職員自らが立てることにより担当以外の入居者の介護計画にも興味が出てきているという。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録に事実の観察項目や言動を記入し、実際に対応した内容と、得た情報を記入している。また、日々の変化等は連絡ノートに記入し職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	役所の手続き代行、病院への付き添い等を行っている。理容院への出張依頼などを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小布施町社協にボランティア団体として登録されており、ボランティアや町内行事を通じ地域との交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	高齢化、重度化に伴い受診する機会が増し、家族ではすぐに対応できない場合が多く、職員がゆだねられ、付き添い、主治医との連携を蜜にとっている。	家族等にも納得をいただき、ホームの協力医療機関を主治医として新たな関係づくりを行なっている。ターミナル期の入居者がいる現状では協力医療機関の医師の毎日の往診がある。受診についても職員が同伴しており、家族等への受診前後の連絡・相談・報告について管理者を窓口として一本化、納得していただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	昨年、24時間体制でいた常勤看護師1人、非常勤看護師が1人、退職してしまったため、主治医や契約している医院の看護師と連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年は、入院者が2人おり、職員が度々お見舞いに訪問し、安心して入院できるように努めた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年、常勤看護師1人、非常勤看護師1人が退職してしまったため、現在は終末期の対応は、それぞれ家族や主治医との相談の上決定している。	現在1名の入居者の方がターミナル期にあり、協力医療機関の医師や看護師の支援をいただきながら進めている。昨年度も同様に一例の看取りを行なっており、他の入居者に動揺は見られず、職員も貴重な経験を通して終末期介護への理解を深めることが出来た。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の実際の対応の経過の伝達をした。介護職の気付きからすぐに医療機関と連携がとれた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の避難訓練を職員のみで実施した。	過去には入居者が車椅子を使用するなど消防署の協力の下実施したことがあるが、定例化するまでには到っていない。自動火災報知器は既に設置されており、スプリンクラーの設置に向けて8月中に完成を目指し工事中であり万が一に備えている。地元防災訓練、広域災害救助訓練へ職員が参加しており、災害時には地元区からの協力が得られるようになっている。	今年度既に予定をされているが、運営規定等にも「避難訓練」の実施が位置づけられており、非常時への備えとして定期的に実施されることを望みたい。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に優しく豊かな接し方、敬語を使い会話している。契約書にも個人情報の取り扱いの項目があり、説明している。また、外部からのお客様を受け入れることも家族に承諾を得ている。	法人の方針にも「ホスピタリティの心」が謳われており、入居者の人間性や信条、個性、感性を大切にして接する職員の姿をみることができた。法人のホームページにも個人情報の保護についての掲載があり管理者から日常的に説明がされている。入居者の誇りやプライバシーを損ねるような言動については厳しく指導がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見や希望を否定せず、最後まで傾聴している。苦情や不満など表現しにくい事も日頃から良いコミュニケーションをとり、言いやすい関係作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはおおよそ決まっているが、一人一人の体調、希望に沿い、食事時間、メニュー、一日の行動スケジュールを柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣時、本人に選んで頂いている。一日中、パジャマでいる事のないよう日中は更衣して頂いている。また、やむを得ず日中パジャマでいる場合は、家族に承諾を得ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が色々な役割を持ち、食事の準備や配膳、盛り付けするなどして参加している。参加できない方も食事の準備を見て楽しみにされている。	モヤシの殻を取ったり、ジャガイモの皮むきなど職員とともに食事の準備をしている。ほぼ半数の入居者が介助を必要としているが、時間をかけてでも可能な限り自分で食べていただくことに力を注いでおり、自立の方と同じ献立で入居者にあった食形態をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた献立と、食欲低下や十分栄養を取り入れられない方については、食事量、水分量をチェックし、摂取しやすいように刻み食、ミキサー食、好きな食品など提供し補うよう調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持に努め、口腔ケア時、口腔内のトラブルの有無をチェックし、適したケアができるよう、スタッフ間で情報を伝え合っている。必要時、歯科受診やドクターの往診を利用している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気持ち良く排泄できるよう、定期的にトイレ誘導し、ゆとりのある仕方で自尿を待つよう支援している。オムツの使用を減らすため排泄状態に合わせたオムツの選択と当て方の工夫をしている。	介助が必要な入居者が約半分いるが、できるだけ自力でしていただくよう支援している。各居室にトイレと洗面台があるので、夜間のポータブルトイレの必要性はない。職員は各入居者の排泄パターンを把握しており、時間を決め支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各自の排便パターンに合わせ、水分の調整、緩下剤の使用調整や乳製品を毎日飲用するようにしている。又運動不足解消に軽体操、レクを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	床暖房により、冬期の寒い時期にもいつでも快適に入浴ができる。各自、定期的に入浴も、汚染時や皮膚のトラブルのある方は頻繁に入浴するように配慮している。	主に午前中の時間帯で少なくとも1週間に三回は入浴しており、排泄等の失敗時にはシャワーで対応している。浴槽も家庭風呂よりやや大きい程度であるが両側から支えることができる。介護度の高い方の入浴の場合には職員2人体制で介助したり、シャワーチェアなどを活用している。季節には菖蒲やバラなどを浮かべることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の希望や、スタッフが観察して休息が必要と思われる時は、ホールフロアーに長座布団を敷いてあり、いつでも休める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ各自は、大体理解しているも、新人職員もおり、まだ完全には網羅できていない。一日のリーダー業務者は、心得、責任をもって配薬管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の手伝いや片付け他、日々の生活の中で必要な仕事の手伝い、秋には栗広いや庭掃除、草取りなど各自できる範囲で行っている。日々のレクリエーションを行ったり、外出支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、時々、散歩に出かけ、外食もされている。また、出かけた時の写真を家族に見ていただいている。	自力歩行の入居者が約3割と全体の介護度が高くなってきている。ホーム周辺の散歩も依然より短い距離となっており、交通上の不安が少ない同じ町内のハイウェイオアシスに車で行き散策している。月に1回ドライブを兼ね少人数で外食にも出かけている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額な買い物などは、本人や家族と話し合い、承諾を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「家に帰りたい」と訴える方には事務所から電話をかけ、家人とゆっくり話して頂いている。また、暑中見舞いや年賀状を一人一人が塗り絵をして、一言そえて家人に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖房やエアコンもあり、適度な温度管理をしている。リビングも落ち着いた感じになっており、壁には季節を思い出せる塗り絵の作品を飾ってある。	共有空間の廊下にエアコンを設置するなど、真夏の暑い時期にもエアコンによる冷房がされている。ホームの周囲に植えられている栗の木がそよそよとしているのを窓越しに見ることができ、自然な涼しさと勘違いするほどである。リビングの一角に長座布団を敷き、見守られることで安心し午睡をしている入居者の姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一つのテーブルを囲み、楽しくビデオやテレビをみたり、レクリエーションを楽しんでいる。 また、休みたい人は、ホールの座布団で横になって休んだり、居室で休む方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、トイレ、洗面所が設置されている。 また、入居前までの生活用品が持ち込まれ、その人らしい居室となっている。湿温度計も設置してあり、加湿器もおいている。	テレビ、仏壇、タンス等、自宅からの持ち込みが見られ入居者の安らぎとなっている。エアコン、換気器機が取り付けられている他、居室内の一隅にトイレ・洗面台が取り付けられており、排泄の自立への環境が整っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所用品の片付けができるよう、引き出しにネームを付けている。洗濯物をたたんでいただいたり、毎日の仕事にできるかぎり携わっていただいている。		